

地崎道路が施工技術発表会

ACTUS活用成果を報告

東農大・山崎教授の特別講演も

地崎道路(株)(東京、渡邊クラウンプラザホテル千歳誠司社長)は25日、ANAで施工技術発表会を開い

た。北海道支店(高橋勝之支店長)の担当者は

「ACTUS共同研究の概要と今後の展望」について発表。ACTUSによる

路面性状調査で得られた成果を示した上で「緊急車両に対する路面状況の情報

提供、災害時の路面状況の情報提供など、その活用方法は多岐にわたる」と強調した。同社と共同研究を進める山崎元也東京農業大学教授による特別講演も行われた。

施工技術発表会は、技術向上に関する取組の一環。23回目となる今回は、新型

技術力向上を目指し研鑽を積んだ



コロナウイルス感染症の感染防止対策にも万全を期して開催した。

ACTUSは、国際フランス指数平坦性(以下、IRI)を測定する装置。測定車両前輪の片側上と下に2つの加速度計とGPSアンテナを設置し、路面変位、時間と速度・距離から

IRIを算出する仕組みとなっている。

通常の舗装点検業務は、目視や路面性状調査車によって行っているが、目視の場合は個人差による損傷評価の相違、路面性状調査車の場合はコストが高いことが課題。ACTUSはこれら課題の解決とともに、路面状況・気象条件に左右されずに1年間オールシーズンでの計測が可能となる。

さらに、計測されたデータをPCに取り込むと、クラウド管理で情報共有化ができるため、舗装支援管理システムに定量的かつ正確なデータを蓄積。舗装管理の生産性向上および効率化、省力化にも寄与する。当日は、北海道支店工務

部の山田雄一係長がこれらの研究概要等を発表。測定機能に関しては「精度・耐久性等を考えなくても完成の域に達している」とし、活用方法も多岐にわたることを説明した。

山崎教授は「ACTUS連動によるPSS運用プロトタイプシステムの構築」と題して特別講演を行った。